

打つ人

作業精度を上げる×地域の安全を守る

拍子木を打ち「火の用心」を呼びかける消防団員。
金属板を打ち抜いて網状の製品をつくる技術者。
チームで力を発揮する2人を紹介します。

HELLO!!
GOOD JOB
ハロー!! グッジョブ

取材・文＝中村まさあき

“ 確立されたやり方でも
工夫の余地を考えます ”



金 属の板をパンチプレス機に掛け、さまざまな形状の穴を打ち抜いて、金網のようなパターンを形づくる「パンチングメタル」(打抜金網)。

村上英明さんは、この一点ものの製造を得意とする「粟村打抜金網九州工場」(葦北郡芦北町、本社・大阪市淀川区、栗村卓家社長)の技術者です。

要する工業用フィルター、通気口のカバー、フェンスなどの建材をはじめ、幅広い用途があります。

「パンチ(金属歯)の金型製作を担当していますが、厚みと材質が同じ金属板でも、網のパターンによってパンチの形状もプログラムも変わります」といいます。

順調に作業が進むよう、常に現場のマシンの操作担当者や声に耳を傾け、金型の改善を図っています。

同社は1917(大正6)年創業の歴史ある企業。古くから大切にしてきた仕事の進め方があります。

「ただ、お客さまの要望に添えるには、確立されたやり方であっても、よくよく考えないと工夫の余地がある場合もあります」

複雑で絶妙な作業が必要な仕事を持ち込まれると、村上さんはじつと、図面を見続



パンチングメタル技術者

むらかみ・ひであき
村上英明さん (八代市・39歳)

葦北郡芦北町出身。高校卒業後、愛知県の製紙会社を経て故郷にUターン。2001年に粟村打抜金網九州工場に入社し、製造部でパンチングプレス機オペレーター、昨年から金型製作を担当。休日は11歳の息子とサイクリングを楽しんでいる。

“ 活動服を着ると、自然に
気持ちが引き締まります ”

地 域の安全・安心のために活動する消防団。熊本市には北区と南区に女性だけで構成された消防分団があります。

南区の園田由美子さんは、第79分団(宮本佐枝子分団長)に所属しています。

「10年前、地元の婦人会の会長さんから消防団への参加を勧められ、頑張ってみようと思いました」と話します。

消防団員の役割は、災害などの際の避難誘導、避難所の設置や炊き出しなどの後方支援、防災啓発活動のほか、さまざまな訓練を行います。

「子どもの誤飲の際の救命救急や心肺蘇生法の講習会などに参加できて、大変ためになりました」

拍子木を打って「火の用心」を呼びかける年末警戒活動は、主に地域の幼年消防団が担いますが、女性消防団員も参加することがあるという

ます。

年間の主な活動内容は、保育園や幼稚園を訪問して園児たちに防災意識の大切さを伝えるための紙芝居、そして2年に1度開催される、軽可搬ポンプ操法大会の準備など。

「大会では5人1組になり、かごに入った玉を落とす放水実技を行います。機敏な動きや規律が重視され、チームの団結力が試されます」

熊本県の女性消防団員数は202人(今年4月)。全国で2番目に多いといえます。

「私たちの活動は、地域防災を目指したボランティアですから、無理をせず、自分ができる範囲で参加すればいいと思っています。ただ、活動服を着ると、自然に気持ちが引き締まります」

「ファイヤーボランティア」と呼ばれる消防団の活動。園田さんたちは地元のため、子ども



もたちを守るため、地域の防災活動に励んでいます。

女性消防団員

そのだ・ゆみこ
園田由美子さん (熊本市南区・47歳)

八代市出身。1996年、熊本市南区域南町に転居。2005年から消防団員。09年の第1回軽可搬ポンプ操法大会で最優秀選手賞を受賞。毎朝1時間のウォーキングを欠かさず、家庭では大学1年生と高校2年生の息子の母親。

